

日本の政府開発援助(ODA)の水準

1. 世界第5位のODA援助実績

4月4日に公表されたOECD開発援助委員会(DAC)の国別援助実績によると、2011年の最大の援助国は米国、続いてドイツ、英国、フランス、日本の順となった。

また、GNI比0.7%という国連の目標を超えていたのは、スウェーデン、ノルウェー、ルクセンブルグ、デンマーク、オランダの5カ国のみであった。日本は、23カ国平均のGNI比0.31%を下回る0.18%の21位であった。

因みに2010年1月から韓国がDACに正式加盟している。2011年の実績は17位の13.2億ドル(前年比12.5%増)、GNI比は22位の0.12%であった。

2011年の国別援助実績(暫定値)の上位5カ国

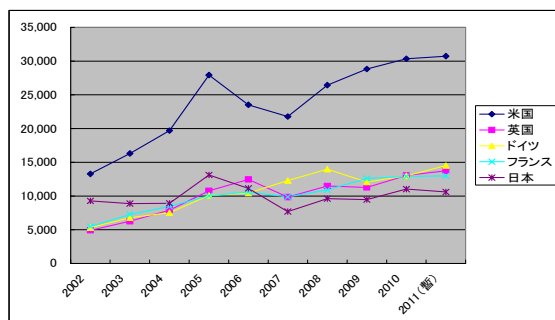
順位 (前年順位)	国名	実績額 (百万ドル)	対前年 伸び率	対GNI比	順位
1 (1)	米国	30,745	1.3%	0.20%	19
2 (3)	ドイツ	14,533	11.9%	0.40%	12
3 (2)	英国	13,739	5.3%	0.56%	6
4 (4)	フランス	12,994	0.6%	0.46%	10
5 (5)	日本	10,604	-3.8%	0.18%	21
	DAC合計	133,526	3.9%	0.31%	-

資料:OECD・DAC

日本のODA援助額は2000年までは世界第1位であった。それが2006年に2位から3位に、2007年に3位から5位に後退し、その後2011年まで5年連続して5位のままである。

主要援助国のODA実績の推移(支出純額ベース)

(単位:百万ドル)



資料:OECD・DAC

2. 重要な外交ツールであるODA

日本のODA援助額は減少し続け、ピーク時の1997年と比較して半減している。日本の将来にとり危険水域に達したODA削減と言われてから久しい。

2011年度のODA予算は、一般会計ベースで2010年度当初比7.4%(460億円)減の5,727億円であった。また、2011年3月に東日本大震災が起り、復興のため補正予算が組まれた。第1次補正予算の財源は国債市場の信認確保の観点から追加の国債を発行せず、歳出の見直し等により確保するとし、その一部として国際機関向けの拠出金の一時的な減額等によるODA予算の削減も行われた。

2012年度のODA予算は、一般会計ベースで2011年度当初比2.0%(116億円)減の5,612億円となった。日本にとって重要な外交ツールであるODA予算は、厳しい財政事情を反映して13年連続で減少した。

一方、東日本大震災が起った2011年は、外国から多くの援助を受けた。2012年2月6日付外務省の発表によると、163の国・地域および43の機関が支援を表明し、うち126の国・地域・機関から物資63件、寄付金93件を受領し、総額で約175億円以上になっている(民間団体や個人からの支援は含まれていない)。アジア、中東、アフリカの国々からの義援金等があり、日本の長年にわたるODA等による国際協力があったはこそこの諸外国からの支援と考えられている。

日本の厳しい財政状況の中、ODAへの理解が得にくくなってはいるが、日本のODAが国際社会で担ってきた役割を再確認し、日本の国力にふさわしい十分なODA水準への反転を目指し、かつODAを戦略的に活用し、相手国あるいは地域全体にメリットのある関係を構築していくことが求められている。

(調査グループ 関谷裕介)